

第15回 「絵本の部屋」特別勉強会

「メルロ＝ポンティ 「知覚の現象学」について」

令和4年3月13日（日）

午後2時～3時30分

（受付 午後1時45分）

講師 佐藤 勇一 さん

会場 大野市図書館 視聴覚室

事前にお申込みください

先着30名とさせていただきます

メルロ＝ポンティは1908年フランス生まれ。18歳のとき高等師範学校に入学し、サルトル、ボーヴォワール、レヴィ＝ストロースらと知り合う。21歳のときフッサールの講演を聴講し、現象学に傾注する。以後現象学の立場から身体論を構想する。37歳のとき主著『知覚の現象学』を出版するとともに、サルトルと「レ・タン・モデルヌ（現代）」誌を発刊する。1949年パリ大学文学部教授となり、児童心理学・教育学を研究する。メルロ＝ポンティは知覚の主体である身体を主体と客体の両面をもつものとしてとらえ、世界を人間の身体から柔軟に考察することを唱えた。身体から離れて対象を思考するのではなく、身体から生み出された知覚を手がかりに身体そのものと世界を考察した。1959年、『見えるものと見えないもの』を刊行。1961年パリの自宅で執筆中、心臓麻痺のため急逝。

